

# アイスピグで管末を洗管

## 伊賀市 作業性や安全性など高評価

伊賀市水道部は7月12日、アイスピグ管内洗浄工法による配水管洗浄工事を実施した。施工現場は新興住宅地の袋小路で、管内堆積物が比較的



管路上にφ50のサドル付き分水栓を設置しSISを注入

溜まりやすい管末端。布設後25年が経過したφ75の塩ビ管(VP管)を洗

管し、良好な洗浄結果を得た。受託した東利(名古屋)古屋市、本多行夫社長

と、アイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)が協力して施工した。

同工法は、管内でピグを形成する特殊アイスシヤーベット(SIS)の流動性とせん断力で洗浄する技術。SISの移動とともに、管内壁を傷めることなく夾雑物や赤さびなどの付着物を絡め取り、管外に排出する。今回は上流側の管路から出る鉄錆や、約10年前まで

原水に使用していた浅井戸由来のマンガン成分の除去を目的とし、洗管効果は目視で確認し評価した。

注入口として利用する消火栓設備が付近にないため、管路上にφ50のサドル付き分水栓を1カ所設置。専用のタンク車両

と、アイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)が協力して施工した。

同工法は、管内でピグを形成する特殊アイスシヤーベット(SIS)の流動性とせん断力で洗浄する技術。SISの移動とともに、管内壁を傷めることなく夾雑物や赤さびなどの付着物を絡め取り、管外に排出する。今回は上流側の管路から出る鉄錆や、約10年前まで

原水に使用していた浅井戸由来のマンガン成分の除去を目的とし、洗管効果は目視で確認し評価した。

注入口として利用する消火栓設備が付近にないため、管路上にφ50のサドル付き分水栓を1カ所設置。専用のタンク車両

と、アイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)が協力して施工した。

と、アイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)が協力して施工した。

同工法は、管内でピグを形成する特殊アイスシヤーベット(SIS)の流動性とせん断力で洗浄する技術。SISの移動とともに、管内壁を傷めることなく夾雑物や赤さびなどの付着物を絡め取り、管外に排出する。今回は上流側の管路から出る鉄錆や、約10年前まで

原水に使用していた浅井戸由来のマンガン成分の除去を目的とし、洗管効果は目視で確認し評価した。

注入口として利用する消火栓設備が付近にないため、管路上にφ50のサドル付き分水栓を1カ所設置。専用のタンク車両

と、アイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)が協力して施工した。

と、アイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)が協力して施工した。

同工法は、管内でピグを形成する特殊アイスシヤーベット(SIS)の流動性とせん断力で洗浄する技術。SISの移動とともに、管内壁を傷めることなく夾雑物や赤さびなどの付着物を絡め取り、管外に排出する。今回は上流側の管路から出る鉄錆や、約10年前まで

原水に使用していた浅井戸由来のマンガン成分の除去を目的とし、洗管効果は目視で確認し評価した。

注入口として利用する消火栓設備が付近にないため、管路上にφ50のサドル付き分水栓を1カ所設置。専用のタンク車両

と、アイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)が協力して施工した。

と、アイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)が協力して施工した。

同工法は、管内でピグを形成する特殊アイスシヤーベット(SIS)の流動性とせん断力で洗浄する技術。SISの移動とともに、管内壁を傷めることなく夾雑物や赤さびなどの付着物を絡め取り、管外に排出する。今回は上流側の管路から出る鉄錆や、約10年前まで

原水に使用していた浅井戸由来のマンガン成分の除去を目的とし、洗管効果は目視で確認し評価した。

注入口として利用する消火栓設備が付近にないため、管路上にφ50のサドル付き分水栓を1カ所設置。専用のタンク車両

と、アイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)が協力して施工した。

と、アイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)が協力して施工した。

同工法は、管内でピグを形成する特殊アイスシヤーベット(SIS)の流動性とせん断力で洗浄する技術。SISの移動とともに、管内壁を傷めることなく夾雑物や赤さびなどの付着物を絡め取り、管外に排出する。今回は上流側の管路から出る鉄錆や、約10年前まで

原水に使用していた浅井戸由来のマンガン成分の除去を目的とし、洗管効果は目視で確認し評価した。

注入口として利用する消火栓設備が付近にないため、管路上にφ50のサドル付き分水栓を1カ所設置。専用のタンク車両

と、アイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)が協力して施工した。

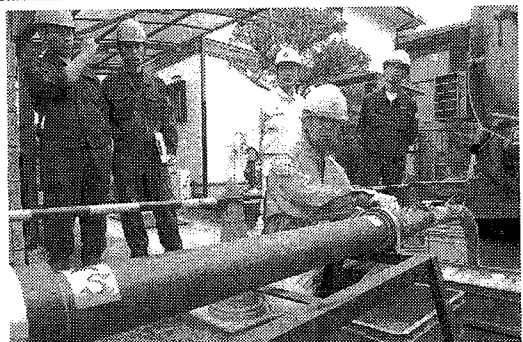
と、アイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)が協力して施工した。

同工法は、管内でピグを形成する特殊アイスシヤーベット(SIS)の流動性とせん断力で洗浄する技術。SISの移動とともに、管内壁を傷めることなく夾雑物や赤さびなどの付着物を絡め取り、管外に排出する。今回は上流側の管路から出る鉄錆や、約10年前まで

原水に使用していた浅井戸由来のマンガン成分の除去を目的とし、洗管効果は目視で確認し評価した。

注入口として利用する消火栓設備が付近にないため、管路上にφ50のサドル付き分水栓を1カ所設置。専用のタンク車両

と、アイスピグ中部地域協会(相澤宏暢会長)が協力して施工した。



鉄錆やマンガン成分などの夾雑物を排出

注入口から分岐部まではSISを2回通したため、2区間目の回収口で確認したSISは汚れが比較的軽かった。堀山和

施工で十分に洗管できたためと考えられる。期待通り」と、洗管効果を高く評価する。

同部は平成26年度から

弘・伊賀市水道部水道施設課副参事兼管理係長は「1区間目のSISは夾雑物を絡め取り、濃茶色に変色していた。2区間目の汚れは、1回の洗管で十分に洗管できたためと考えられる。期待通り」と、洗管効果を高く評価する。

同部は平成26年度からアイスピグ管内洗浄工法を採用し、今年で3年目。同年度はφ150のダクタイル鉄管で延長280m、翌年度はφ75の同管・150m、φ100のVP管・160mを洗管した。堀山副参事は「施工上の制約が少なく作業が容易であること、ピグ詰まりのリスクがなく安全であること、そして、費用対効果が高い点」を高く評価している。アイスピグの利点を説明。今後とも濁水に関する住民の問い合わせが多い管路を計画的に洗管するとしている。